



Vol. 2

わたしのおとうさん
ぼくのおかあさん

こんにちは 絵本



—3才頃から—



一宮市立子ども文化広場図書館

2011年6月

おとうさんとさんぽ

にしかわおさむ 作・画
教育画劇 1989年

森へ行く道は気持ち良い風がふいていて、ぼくはお父さんとさんぽに出かけます。途中で犬やすかんくや熊が出てきたけど、お父さんと一緒にだからこわくなんかないよ。



4こうねんのぼく

ひぐちともこ 作・絵
草炎社 2005年

今日の宿題は星の観察。お父ちゃんはぼくと弟をつれて夜に出かけました。「4光年離れた星からは4年前の地球が見える」と先生が言ったので、それなら…と、ぼくはお父ちゃんに4光年の秘密の説明をします。



わたしのおとうさん

すえっこ おおかみ

ラリー・デー・プリマー 文
ホセ・アルエゴ 絵
アリアンヌ・デュイ 絵
まさきりこ 訳
あすなろ書房 2003年

「ね、できないでしょ」と、しょんぼりする末っ子オオカミ。でも父さんオオカミは「今はそれでいい。きっとできるようになる」と力強くはげまし語りかけます。

すえっこ おおかみ



ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイク 作/木坂涼 訳
セラー出版 2000年

雨がふって外で遊べないピートはごきげんななめ。そしたらパパが「ピートでピッツアをつくろう」って。ピートの体をこねて、ひっぱって、油だってめっちゃうよ。



パパ、かばになる

安江リエ 作/飯野まき 絵
偕成社 2009年

ママがお出かけの夜、パパとカレーを食べてからお風呂にサブン！お湯の中にしずんだパパの背中がずんずんずんと茶色になって、ぐんぐんぐんと大きくなって…出たあ！！

* 出版年は、日本での初版出版年です。

ハルコネコ

あおきひろえ 作・絵
教育画劇 2009年



妹も一緒にいたずらしたのに、しかられたのはハルコだけ。おもしろくないからネコになってお母さんを困らせてやれ！ さっそく、ノラネコのお茶会に出かけます。

とうさんかあさん(新装版)

長野ヒデ子 作
石風社 1980年

「父さん話して子どもの時の話」
「母さん教えて子どもの時の話」
両親に尋ねる子どもに、それぞれ思い出を語ります。昔の父さん母さんに会いたくなります。



だいすき ひゃっかい

村上しいこ 作/大島妙子 絵
岩崎書店 2007年

なぞなぞです。「はるなが寝る前に行くのはどこ？」洗面所でもトイレでもなく、答えはお母さんの腕の中。はずれた罰にお母さんは はるなを抱きしめ「だいすき100回」です。



ぼくのおかあさん

ちいさなヒッポ

マーシャ=ブラウン 作・絵
うちだりさこ 訳
偕成社 1984年

カバのヒッポはお母さんから危険を知らせる「グアオたすけて」という言葉を教わります。大きなワニに襲われたヒッポはちゃんと言えたでしょうか。

サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー 文・絵
石井桃子 訳
岩波書店 1986年

サリーとお母さんは冬のジャム作り、こけももをつみに来ました。その同じ山でお母さんぐまと子ぐまも冬の仕度にこけももを食べてます。どちらも夢中で、あらあら大変！



まだまだ紹介します

『ねえ とうさん』

佐野洋子 作（小学館）

『すきすき ちゅー!』

イアン・ホワイブラウ 文/ロージー・リーヴ 絵
おびかゆうこ 訳（徳間書店）

『おとうさん・パパ・おとうちゃん』

みやにしたつや 作・絵（鈴木出版）

『すきですゴリラ』

アントニー・ブラウン 作・絵
山下明生 訳（あかね書房）

『おりょうり とうさん』

さとうわきこ 作・絵（フレーベル館）

『パパはジョニーっていうんだ』

ポー・R・ホルムベルイ 作/エヴァ・エリクソン 絵
ひしきあきらこ 訳（BL出版）

『おとうさん だいすき』

司修 作・文・絵（文研出版）

『ママがおうちにかえってくる!』

ケイト・バンクス 文/トメク・ボガツキ 絵
木坂涼 訳（講談社）

『ぼく おかあさんのこと…』

酒井駒子 文・絵（文溪堂）

『ぼく にげちゃうよ』

マーガレット・ワイズ・ブラウン 文/いわたみみ訳
クレメント・ハード 絵（ほるぷ出版）

『おかあさんになるってどんなこと』

内田麟太郎 文/中村悦子 絵（PHP研究所）

『かあさんのいす』

ベラ B・ウィリアムズ 作・絵
佐野洋子 訳（あかね書房）

『カンガルーの子どもにも かあさん いるの?』

エリック・カール 作/さのようこ 訳（偕成社）

『おかん』

平田昌広 文・平田景 絵（大日本図書）

『この絵本は何才向き?』

子どもにはそれぞれ個性もありますし、成長の速度も一人ずつ違います。何才だからこの本を、ではなく、お子さんの成長にあわせて選びましょう。

大まかな目安として、3才頃から空想する力が豊かになり、少し長いお話でも楽しんで聞く力が育ちます。その後は子どもの好みを尊重しながら、昔話や科学など絵本の世界を広げていきましょう。